



第5回犬山カジュアル学術討論会
ニュースレター

2020年9月27日

愛知県犬山市

フロイデ(犬山市民交流センター)

本会の目的

今の世の中では、様々な視点から多角的に物事をとらえて考えることが重要であり、そのためには一つの内容をひたすらに学ぶだけでなく、様々な分野のアイデアにも精通し広い視野を常に養う必要がある。例えば、昨年報道されたブラックホールの直接撮像に関する研究成果は、天文学者による精密な観測と統計学者による画像処理によって初めて得られたものである。また近年、流体力学の分野で注目されているプラズマアクチュエータはプラズマ工学と流体力学の知見の融合で開発された装置であり、プラズマを発生させることで流体を制御し、飛行機の翼周りの摩擦抵抗や新幹線の騒音の低減に繋がると期待されている。このように、科学の発展のためには分野の垣根を超えた交流が重要である。しかし、ある特定の分野に絞った講演会や学会、研究会は多く存在している一方、異分野交流の機会を提供する組織はほとんどない。そこで我々は本会を結成し、社会人や大学院生、大学生などの専門家によるプロジェクトや講演会による活動を行っている。

第5回 ICAD の開催

2020年9月27日に犬山市民交流センターフロイデにおいて、今回で第5回となる犬山カジュアル学術討論会(Inuyama Casual Academic Discussion, 以下 ICAD)が開催された。今回はコロナウイルスの感染対策として、運営スタッフ以外の講演者はオンライン会議システムを使用して外部から参加した。また、一般の聴衆向けにはインターネットのライブ放送を使用して会場に来ずとも閲覧ができるようにした。イ



ンターネットを使用し、遠隔地からも参加できるようにした試みは初めてであったが、大阪府や岡山県、岐阜県、新潟県、三重県など全国各地から計18名の申し込みがあり、多数の参加者を迎えることができたので、今後のICADでも活用していきたいと考えている。そしてこれまでのICADと同様に犬山市と同市教育委員会より後援を受け、クラウドファンディングにも挑戦した。

講演題目

第5回 ICAD の講演題目は以下の通りである。

1. 乱れた流れの中を運動する微粒子の物理（櫻井幹記、名古屋大学）
2. カタラン数について（浅井瑞貴、岡山大学）
3. 眼の外側の透明な部分、角膜のお話（大山裕貴、同志社大学）
4. イネにおけるプロモーター配列とオーキシン応答性の関係について（河合翼、名古屋大学・西オーストラリア大学、櫻井幹記、名古屋大学）
5. ゼロから生命を作る試み～生物学者の挑戦（大浦聖矢、大阪大学）（招待講演）
6. 日本人は白米がお好き？—遺伝子と日本史の観点からの考察—（神野恭輔、名古屋大学）
7. 菜食主義は地球を救うのか—フレキシタリアンを体験して—（馬瀬カンナ、南山大学）
8. 効率の良い外国語学習方法について（若宮稜、南山大学）
9. マッサージはなぜ気持ちいいのか？-手技療法の科学的根拠についての二次研究-（可児良介、さつき整骨院）

* 講演概要については ICAD ホームページ内に掲載されている当日のプログラムをご参照ください。

アンケート結果詳細

第5回 ICAD 終了後にとったアンケートの結果について記載する。

参加者の中心となっている年齢層は 20 代から 30 代と若く、ポスターを見て参加を決めた聴衆の方も見られた。また、今回の ICAD から開始した研究プロジェクトについて聴衆の興味を引くことができた。オンライン配信の見やすさについても問題はなかったことがアンケート結果からわかった。講演内容の面白さについての項目では、全ての講演について「面白かった」と回答されているが、とりわけ南山大学の馬瀬カンナ氏による「菜食主義は地球を救うのか—フレキシタリアンを体験して—」の評価がもっとも高かった。最後に、今後の ICAD 参加についてもポジティブな意見が多く寄せられていた。